

小麦新品種「ハヤトコムギ」について (予報)

紙屋 貢・宝満正治・白沢末雄

(鹿児島県農業試験場鹿屋支場)

1 まえがき

九州地方の畑地に適する小麦品種として、「ハヤトコムギ」が育成されたのでその特性と育成の経過を紹介して参考に供したい。なおこの品種の育成には我々の外、故持田貞次、渡辺昌幸(現山形県農試)等が関係した。又本育成試験の実施に当たり、支場長中渡瀬清香氏、故安間研究企画宮、永野前研究調整官の御助言をたまわり、関係農業試験場の試験担当者及び当場の小島静雄氏、西小野リツ子氏等の協力を得た。付記して感謝の意を表したい。

2 来 歴

この品種は1948年農林省鹿児島農事改良実験所鹿屋

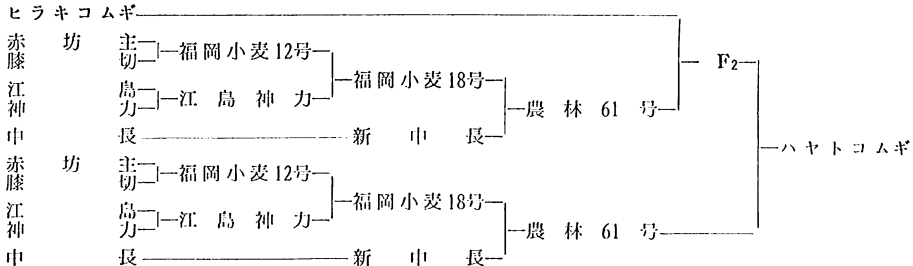
試験地において「ヒラキコムギ」を母とし、「農林61号」を父として交配を行い、1951年そのF₂ 個体の1部に「農林61号」を戻し交配したものから育成せられた。1955年「南九州57号」の系統名で関係県へ配付、1961年新品種として登録され、「ハヤトコムギ」と命名された。その系統図は第1表のとおりである。

3 育成の経過

この品種の育成経過は第2表、第3表のとおりである。

F₂ においては1960個体栽培、ほ場において202個体を第1次選抜した。室内での第2次選抜において50個体が選抜された。F₂の選抜に当っては中又は短程で良

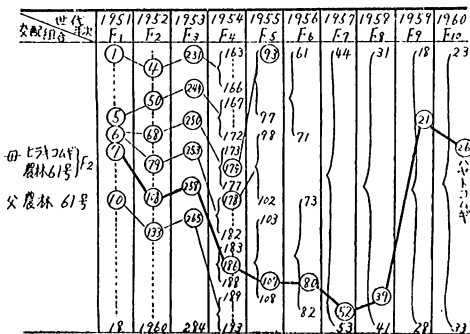
第1表 ハヤトコムギの系統図



第2表 選 抜 経 過

交 配 組 合	栽植又は 選抜系統(個体)	世代(年次)									
		1951 F ₁	1952 F ₂	1953 F ₃	1954 F ₄	1955 F ₅	1956 F ₆	1957 F ₇	1958 F ₈	1959 F ₉	1960 F ₁₀
母 ヒラキコムギ	栽植系統群数	—	—	—	6	3	2	1	1	1	1
父 農林61号	栽植系統数	—	—	50	30	15	20	10	10	10	10
母 × 父 F ₂	1系統当栽植株数	(18)	(1960)	148	148	148	148	148	148	148	148
	選抜系統(個体)数	(13)	(50)	6	3	2	1	1	1	1	1

第3表 育成系統図



質の個体に重点がおかれ、出穂期、収量(穂重)はあまり重要視されていない。しかし最後には早生で多収のものが残ったことになる。

F₃ では50系統が供試され、13系統がほ場で選抜、室内で6系統が選抜された。この世代では出穂期に重点がおかれ、晩生の系統は殆んど廃棄せられている。

F₄ では6系統群30系統が供試され、一部の系統群は生産力検定予備試験に供試し、収量及び特性検定試験成績に重点を置いて選抜した。耐病性の点では大差はないが、「ハヤトコムギ」の前身にあたる系統はや

や劣り、収量は最も多収を示している。又多収であつても熟期の晚いものは廃棄されて結局3系統が選抜された。

F₅では3系統群15系統が供試され、主として収量に重点をおいて2系統を選抜した。

ここで南九州57号のみを残した。以後この系統の固定をはかった。

4 特性の概要

この品種は「農林60号」程度の中生種で、中程、分けつはやや少い。穂は大きく張りがよく白稈である。銹病に対する耐病性は「農林60号」にやや劣るが、白波病、赤かび病は大體同程度である。燐欠抵抗性はかなり強い。粒はやや大粒で良質、製粉上の品質も農林60号に優り、多収である。

5 試験成績

育成地における試験成績は第4表のとおりである。九州地方の代表品種である「農林60号」「農林61号」に比較してやや晩生であるが、稈長は同程度、穂は大きく多収である。粒は大粒で容積重も重い。又如地少

肥向のハタマサリに比較すると4日程早く、凍霜害をうけた1959年を除くと多収である。特性検定試験の成績を示すと第5表のとおりで、赤銹病の耐病性はやや劣るが、他は「農林60号」「農林61号」と大差ない。燐欠抵抗性は「ハタマサリ」に及ばないがやや強である。春播性程度はⅠ～Ⅱで「農林60号」程度で「農林61号」よりわずかに低い。なお各県における試験成績は第6表のとおりである。

上の成績のとおり、鹿児島、熊本、大分、佐賀、高知で多収を示し、現在鹿児島、熊本両県の奨励品種に採用されている。

6 適地及び栽培上の注意

南九州及び高知県の畑地に適すると思われ、ドリル播などの密播に適する。早播きはさけて、銹病に注意。

7 考 察

この品種は、中程、長穂、耐病、多収の目標で選抜されたが、耐病性のみは目的を達し得なかつた。しかし多収良質で適地に普及するものと思われる。

第4表 育成地に於ける試験成績

品 種 名	出穂期		成熟期		結実日数	倒伏	稈 長		m ² 当 数	a 当子実重量 kg	比 率 %	子 実 重 g	千粒重 g	品 質
	月 日	月 日	月 日	月 日			cm	cm						
ハヤトコムギ	4. 4	5. 24	5. 24	5. 24	50	ビ	80	9.1	335	23.0	136	751	33.8	上下
(標)農林60号	4. 2	5. 24	5. 24	5. 24	48	ビ	77	8.6	381	18.5	100	706	31.8	中中
(参)農林61号	3. 31	5. 24	5. 24	5. 24	50	ビ	79	8.7	369	20.3	115	737	31.2	中上
(参)ハタマサリ	4. 8	5. 28	5. 28	5. 28	48	少	90	10.2	331	22.8	146	746	29.7	中上

備考 (1) 1955～1959年の4カ年平均である。

(2) (参)ハタマサリの収量の比率が高いのは1959年が凍霜害のため他の品種が被害をうけたためである。

第5表 特性検定試験成績

品 種 名	赤 銹 病	赤 銹 病 (宮崎)	黒 銹 病	白 波 病	赤 か び 病	萎 縮 病 (九農試)	燐 欠 抵 抗 性	春 播 性
ハヤトコムギ	中少	中	少	中	中	中	稍強	Ⅰ～Ⅱ
(標)農林60号	中少	中中	中	中	中	中	中	Ⅰ～Ⅱ
(参)農林61号	中	中	中	中	中	中	中	Ⅰ
(参)ハタマサリ	ビ	中少	中	中	少	中	中強	Ⅱ～Ⅲ

備考 (1) 1953～1960年の成績である。

(2) 試験場所の記入してないのは育成地の成績である。

第6表 配付先に於ける試験成績

県名 場所 栽培条件	鹿 見 島		熊 本		宮 崎				大 分		福 岡		佐 賀		長 崎		高 知					
	本 場	熊毛	本場	欠部	阿蘇	本 場	都 成	本 場	大野	本 場	本 場	本 場	三瀬	本場	本 場	山間地	山間地	山間地				
	標準	多肥	標準	如	標準	標準	多肥	口	如	標準	少肥	標準	標準	多肥	標準	多肥	標準	標準	標準			
対標準比率%	115	113	110	112	124	75	104	104	114	107	102	97	99	104	107	97	91	128	88	111	99	105
試験年数	6	3	4	5	3	2	4	4	4	4	4	2	2	4	4	4	4	3	2	3	3	3
標準品種	No. 60	"	"	No. 61	"	"	No. 36	"	"	"	No. 61	"	"	No. 61	"	No. 61	"	"	No. 61	No. 20	"	エビスコムギ